



皆様こんにちは。「つばめ通信（蓮田病院版）」の第2回目です。前回は、この「つばめ通信」の名前の由来をお話し致しました。今回は、（蓮田病院版）となったちょっとしたエピソードをお話します。実は、つばめ通信というのは当病院のオリジナルの発想だと思って名付けようとしたのですが、ひょっとしたら・・・と思い、ネット検索したところ、ずっと以前から「つばめ通信」という、摂食嚥下チームのニュースレターがあることがわかりました。徳島大学の摂食嚥下チームが発行しています。これは大変！名前のパクリになってはいけないと思い先方に連絡したところ、それでは「つばめ通信（蓮田病院版）」という事で、どうぞお使い下さいという温かいお許しを

頂いた次第です。その他にも、摂食嚥下障害の子供たちのための「つばめの会」というのもあり、摂食嚥下とつばめ、色々つながっているのは面白い発見でした。大きな口を開けてエサをねだり、ぐんぐん元気になってやがて青空を駆け巡るようになるつばめのヒナをみているとなんだか元気になりますね。摂食嚥下障害で悩んでいる方たちも、目標を持って常に前向きに頑張りたい、そんな気持ちを忘れないための命名だったな、と改めて思います。

## 自己紹介

摂食嚥下機能の評価と訓練を担当します、言語聴覚士（ST）のW鈴木です。

嚥下障害の患者様への訓練や支援には「どこに・どのような問題があるのか」「どのような状態なのか」「その原因は何か」など丁寧な評価が必要です。その際重要なのは、問題点だけでなく、患者様がもっている機能や能力を発揮できるように導くことです。評価と同時に、食形態や摂食姿勢・方法などの対応策を考えます。また、患者様各々に応じた適切な訓練方法を選択し、摂食嚥下チームで共有し話し合いを重ねながら嚥下機能の改善に向けて進めていきます。嚥下障害の治療・訓練はいかに安全に飲み込む力を改善させていくかが重要になります。誤嚥していることに気付かず食事を継続させていると、誤嚥性肺炎を引き起こす可能性があります。STがその時々飲み込む力を十分に評価した上で、無理なく食事していただけるよう関わっていきます。

点滴やチューブからの栄養補給だけでなくお口から食事を摂れるようになることは患者様にとって大きな喜びであると同時に私たちSTにとっても大きな励みとなります。

今後ともよろしく願いいたします。

言語聴覚士  
鈴木あゆみ・鈴木直美



## 次号のお知らせ

2021年9月1日 発行  
委員長あいさつ、摂食嚥下チーム  
メンバーを紹介します